

子どもたちの未来の 森づくり事業



緑の募金では、「ファミリーマート夢の掛け橋募金」並びに㈱ファミリーマートの募金寄付により都道府県緑化推進委員会推薦事業として「子どもたちの未来の森づくり事業」を実施しています。

子どもたちと作り、進める「沼田式森づくり」加速化事業

北海道沼田町



事業概要

目的は、なるべく化石燃料を使わず馬を活用した整備作業の活動を通して、子どもたちへの森林環境教育活動の推進と、北海道的里山モデルの構築を目指すことである。そのため、町内の子どもや保護者、教育委員会や沼田町役場などと連携し、馬による森林整備を組み込んだ森林環境教育活動を提供した。また、札幌や東京など首都圏からの子どもや保護者に活動を紹介し、協力していただいた。

事業成果

子どもや保護者に対する活動として取り組みが始まった活動が、保護者や関係者、あるいは企業のCSR活動として取り組みたいという法人の興味や関心を引くこととなり、子どもを始めとした様々な主体に対する活動提供の可能性が高まってきたことはとても大きな成果であると考えている。今後の継続的な活動推進のための方法の一つとして、関係性を構築していくことが重要だと考える。

事業をよく知る関係者の声

- ・自然学校の運営を側面的に支援する行政の立場として、動物の専門家やボランティアスタッフが手入れと一緒に進めてくれることは、本当に有意義であり、ありがたく思う。地元の子どもたちにとっては「憧れ」になる。このように、動物を使った森づくりが、森や馬を通して世代や業界を超えてつながっていくことに大きな意義を感じている。(沼田町役場担当者)

参加者の声

- ・先進的な森づくりに関わっていることにとてもうれしさを感じる。より主体的で専門性の高い活動提供や技術習得ができたことがうれしい。(大学生ボランティア)
- ・動物と一緒に活動することでいろいろな効果を持つことを知り、学びを得る場の機会になっている。自分が小さい頃にやりたかった活動を子どもと他の保護者の方と展開できることに意味を感じている。(保護者)



薪割り



馬による伐倒木の搬出



樹液採取



枯れ枝処理・焚き火

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1 ha
間伐面積：1 ha
森林資源活用：薪作り、樹液活用
その他：子ども向け自然体験活動

参加者数

道内：161人
道外：28人
計：189人

赤井川村の森づくりと環境学習事業

北海道赤井川村



事業概要

目的は、森づくりと地球環境保全の大切さを学び合うこと、森林の育成と全ての命との共生、異年齢・多世代間が育ち合い、夢と希望をはぐくむことである。そこで、幼児・小・中・高校生、近隣住民が、支援団体による指導・協力により、次を実施した。①森林環境学習会、②植樹会（苗木200本）、③ポット苗作り講習会、④異年齢・多世代グループによる感想発表会。

事業成果

イベントは2回実施。森林環境学習会では、積極的に参加する姿が見られた。植樹会では、高校生が子どもや高齢者をサポートする姿など、異年齢・多世代間の貴重な交流が見られ、支援団体の方々の安全確保への多大な貢献もあり、無事に200本の植樹を完了できた。感想発表会では、協力して意見を出し合い、助け合ってまとめていた。以上、当会が掲げる目的の浸透が図られたと実感できた。

事業をよく知る関係者の声

・植樹地として、作業道並びに林道を整備する方向性も検討しながら選定。植樹した立木の生育を眺めてもらえる環境整備を期待しつつ、初年度としては、参加者の方々の声から伺えるように、本事業に対する意欲・感謝などの声が多かったことに対し、事業の目的は達成できているものと推察。（赤井川村職員）

参加者の声

・木を植えるのが楽しかった。参加して良かった。（小学生女子）
 ・木を植える体験、異年齢交流の時間がとても楽しかった。また参加したい。（中学生女子）
 ・森についてより深く学ぶことができた。（高校生女子）
 ・雨の中だったが、子どもたちと楽しく作業ができた。貴重な体験だった。これからも参加したい。（60代男性）



森林環境学習会



トドマツ、イタヤカエデ各100本を植樹



感想発表会



整地作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
 植付本数：200本
 地拵他面積：0.2ha
 整地面積：0.2ha
 イベント（学習会）：2回

参加者数

道内：189人
 計：189人

樹種

トドマツ、イタヤカエデ

写万部山麓緑化事業～海とつながる木育基地

北海道長万部町



事業概要

写万部山登山口付近の北海道新幹線工事に伴うトンネル掘削残土埋立地において、植樹・植栽や地域材を活用した木製遊具や建造物などを通して、子どもたちの森林環境学習・木育の拠点を整備。主な活動は、①植樹や花苗の植栽、②地域材を活用した木製遊具の製作、③地域の子どもたちと木育活動を行いながら、木育の基地作り。

事業成果

昨年整備した木育基地に間伐材を利用した遊具（シーソー）を追加製作した。登山口には様々な木を植樹し、登山口

と木育基地内にベルを製作した。

事業をよく知る関係者の声

- ・登山口付近に遊べるビュースポットができて良いことだ。広く周知した方が良いと思う。（登山者）

参加者の声

- ・木育の基地の活動に参加した。自分で植樹した木が成長するのも楽しみで、場所は少し街から遠いけど子どもを連れて遊びに来たいと思える広場だと思った。これからもこのような活動へ子どもと一緒に参加したい。（参加保護者女性）



枝を使ってカトラリー作り



手作りシーソー



登山口と木育基地内にベルを製作



植樹した苗の保護作業

実績とりまとめ

作業内容

植栽本数：100本
その他：木育活動

参加者数

道内：68人
計：68人

樹種

エゾヤマザクラ、クリ、ナラ、アオダモ、オニグルミほか

「ふるさと復興の森づくり@厚真町」事業

北海道厚真町



事業概要

目的は、胆振東部地震で崩落した斜面の森を復元するために地元住民による森づくり活動を行い、ふるさとの自然環境と防災について学び続けていくこと。主な活動は、①厚真町の林の樹木からタネを採る、②採取したタネ（球果、果実など）から種子以外の部分を取り除き、育苗箱やポットに植える、③生態学的混播混植法により、地元のタネから育てた苗木を植栽、④森林と地域の歴史についての学習。

事業成果

新たな場所での活動となり、崩落場所の森林の回復を拡大できた。一般市民の参加も多く、より一層関心を高められ、地域の樹木を育てる重要性や森が果たす役割を理解してもらえた。タネ採り・タネ播きには児童の放課後クラブと連携し多くの子どもたちが参加。一部の苗木をクラブに保管し、苗木の成長も観察してもらえた。また、菌根菌を与えた苗木については、今後も成長を比較・観察していく。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちに、住んでいる地域について知ってもらえた。植樹から森林の必要性を学んでもらえた。（主催者）
- ・厚真町だけでなく地元の団体などと協働した事業にし、最終的には地元で活動してもらいたい。地元団体の運営協力を呼びかけたい。（コーディネーター・講師）
- ・菌根菌を使用した苗の成長によっては、今後の森づくりにいかせるので期待している。（厚真町職員）

参加者の声

- ・土を触ったり、苗を植えるのが新鮮だった。自然に近づけた感じがした。（一般参加者）
- ・厚真町の周囲には火山の影響でできた地層が多いことが勉強になった。（一般参加者）
- ・地域を知ることができ、自然とふれあえる機会が子どもに良い。森林整備は地域防災につながると深く理解した。（一般参加者）



樹木の役割を説明しながらタネ採り



苗木をポットに植え替える



菌根菌の感染苗作り



防草シート上に苗木を植える

実績とりまとめ

作業内容

植栽面積：1 ha
 植栽本数：100本
 タネ採り：1回
 タネ播き：1回
 苗木作り：2回
 調査：3回
 勉強会：3回

参加人数

道内：74人
 計：74人

樹種

ハルニレ、ヤチダモ、ホオノキ、ミズナラ

こどもたちとつなぐ未来の森プロジェクト

青森県むつ市



事業概要

青い森が県名の由来である緑豊かな地域に生まれ育った子どもたちと未来に向けた森を育て、森の大切さを伝えていく。主な活動は以下のとおり。①伐採後の地拵え、②地元の木、青森県及びむつ市の指定木「ヒバ」の植栽、③SDGsの森と海の豊かさを守る落葉樹「ヤマザクラ」の植栽（県及び市との連携）、④子どもたちによる植樹体験（地元小学校及びクラブチームとの連携）、⑤子どもたちへ森の大切を伝えるための森林教室。

事業成果

本事業3年目の集大成として、これからも継続的に植樹活動を通じて地域の子どもの森の大切さを伝えるため、「ヒバ樹齢200年を目指す市民の森プロジェクト」を実施。誰でもヒバの香りを楽しめる悠久の森をつくるため、ヒバの大苗をシンボルとして植樹することで、子どもたちへ植えて・

育てて・使う大切さを伝えることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・前年度までの2年間は、コロナの影響もあり、植樹の時間より林業の現場を実際に見学・体験する時間が多く、植樹は数本程度であった。子どもたちがもっと苗を植えたかったとの声から、今年度は植樹に時間を割いてもらい、プロの方とたくさん植樹した。この体験で、子どもたちに充実感が広がっていた。(50代小学校教諭)

参加者の声

- ・昨年、自分たちが植えた苗が大きくなっているのを確認できて、うれしかった。また、自分たちで植えたヒバやサクラの成長を見るために山に来たい。(小学生女子)
- ・森林がどのような働きをしているのかが分かった。私たちの生まれたまちが地球に貢献できていることを誇りに思った。



支柱杭打ちが完了した植樹地



植樹



森林教室



看板・標柱設置後

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：300本
下刈面積：0.4ha
支柱設置：300本
森林教室：1回

参加者数

県内：94人
計：94人

樹種

ヒバ、ヤマザクラ

SDGs キッズ海岸防災未来の森づくり事業

宮城県仙台市、七ヶ浜町



事業概要

東日本大震災で失われた宮城県の海岸防災林再生活動を継続的に実施していくため、未来を担う子どもたちに参加してもらい、海岸防災林を自分のものという意識を持ってもらうことを目的とした。また、コロナ禍で思い切り自然体験ができていない子どもたちに、海岸防災林や海岸の開放空間でのびのびと活動してもらう機会を創出した。小学生から高校生までの幅広い世代に、海岸防災林の植樹や保育活動、海岸でのビーチコーミングとマイクロプラスチックゴミ清掃活動、運河での釣り活動などを体験してもらい、楽しい思い出づくりと海岸防災林を自分たちで育てていく意識を芽生えさせた。

事業成果

これまでの抵抗性クロマツを植樹して育てる単一の植樹活動から、育ってきた抵抗性クロマツの中にサクラなどの広葉樹を植樹できるようになった。肥料を入れて丁寧に1

本ずつ植えつける作業は、楽しさや充実した樹木学習につながった。また、新しい企業5社が海岸防災林での活動を開始。たくさんの新しい出会いと、新しいフィールド・海岸防災林活動プログラムを創出することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちが海岸防災林で活動する良い機会である。すばらしい事業だ。(宮城県水産林政部森林整備課保安林班)
- ・七ヶ浜町の復興のため、町の活性化とより良い環境づくりに尽力していただき感謝。(七ヶ浜町関係者)

参加者の声

- ・海岸防災林整備活動のほか、海岸清掃や釣り活動など、1日で様々な体験ができてすばらしい。(小学校教諭)
- ・疲れたけれどきれいになったので良かった。年3回くらいは活動したい。(参加企業の支社長)
- ・協定地外の法面からクズが侵入するためその対策を行ってほしい。(地域ボランティア)



除草



植樹



間伐したクロマツの搬出



広葉樹保育活動

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.29ha
 植付本数：820本
 樹勢回復：7,940本
 下刈面積：8.0ha
 除伐面積：1.15ha
 間伐面積：0.65ha
 枝打本数：890本
 森林資源活用：9回
 森林教室：10回
 自然体験：10回
 作業研修：6回

参加者数

県内：1,706人
 県外：1人
 計：1,707人

樹種

オオシマザクラ、クロマツ

若葉こども園の森整備事業

福島県会津美里町



事業概要

園で所有する「若葉こども園の森」を整備し、園児と保護者の方へ、豊かな自然環境下で教育活動を行う。そして、活動を通して自然への興味関心を高め、森林と人との共生への意識の醸成を促すことが目的である。主な活動は以下のとおり。①若葉こども園の森の整備と保護者による下刈り、②森の探検活動（うち6回は指導者を招いて一緒に散策）、③森に設置する看板作り、④クヌギの苗植樹。

事業成果

専門業者の整備により、活動がしやすくなったおかげで、広場の椅子に座って森の案内人の方から話を聞いたり、安全に坂道を上り下りしながら散策を楽しむことができた。また、保護者に下刈りに参加してもらったり、子どもたちが自分たちの森をこれからどうしていきたいか考えながら看板作りを行ったことで、今まで以上に自然、森を大切に

していこうという意識が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・家庭では自然の中で遊んだり自然にふれあう機会が少ないため、園外保育などで子どもたちがいろいろな経験をして知識を増やしていくことがとても大切で貴重だと思う。地域に情報を発信する機会を増やし、他団体にも研修の場として使わせるなど地域に開いていけば、より多くの人の手も入ってよいのではないだろうか。（森の案内人70代）

参加者の声

- ・森の案内人の方の話に子どもたちは興味津々。キラキラした目で葉っぱや木の実を見つけていて、とても素敵な体験ができた。私自身も知らないことをたくさん知ることができて面白かった。（園外保育参加の保護者の方）



植栽



保護者による下刈り



森の案内人と森探検活動



子どもたちが考えた森づくりの看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.032ha
植付本数：20本
看板作成：20枚
森探検活動：25枚
現地調査：1回

参加者数

県内：1,405人
計：1,405人

樹種

クヌギ

田人林業体験フィールド活動事業

福島県いわき市



事業概要

自然散策して、森林とふれあい心豊かな人間形成と社会全体の利益の増進に寄与するため、荒廃した山林の整備を実施した。主な活動は、①フィールドにおける不要木の除伐作業、②遊歩道の整備（重機による粗造りと碎石敷均）、③サクラ・ハナモモなどの植樹体験活動である。

事業成果

植樹体験参加者を一般募集したところ多くの参加者があった。活動を通して、参加者に森林整備の大変さと大切さを理解していただいた。来年も参加したいとの声があり、広がりを感じた。

事業をよく知る関係者の声

- ・ 昨年、道路に面した広場に植樹したハナモモが立派に咲き、景観がとても良くなり、子どもたちの声が聞こえて楽しい。（地域住民70代）
- ・ この広いフィールドと長い遊歩道の整備・管理は大変だと思うが、頑張っていたきたい。（山林事業者60代）

参加者の声

- ・ 楽しかった。植樹の後のピザが美味しかった。（小学2年生）
- ・ 同じ木でも、若い木と老木では、CO₂吸収量が違うことを知った。（小学5年生）
- ・ 植樹はある程度簡単にできるが、管理（つる切り・下刈り）は大変だと思う。私たちは、植樹することを応援するので頑張っていたきたい。（主婦60代）



フィールドの整備後（つる切り、除伐作業）



遊歩道の整備（碎石敷均）



大苗を運ぶ子どもたち



植樹活動

実績とりまとめ

作業内容

植栽本数：58本
フィールド整備
遊歩道整備

参加者数

県内：231人
計：231人

樹種

ソメイヨシノ、ヤマザクラ、ハナモモ、コブシほか

畑小学校「学びの森」復活プロジェクト

千葉県千葉市



事業概要

畑小学校の裏にある竹林はかつて学びの森として授業内及び課外授業の場であったが、荒れ果ててしまい、立ち入ることができない状態だった。そこで、竹林を整備し、子どもたちの安全な学びの場を復活させるために、以下の活動を行った。①入口、歩道、境界線フェンス・水路フェンスの整備、②倒れたタケの運び出しと倒れそうなタケの伐採、③伐採したタケの活用（運動会、門松、竹灯籠、竹炭、竹ぼっくり、キーホルダー）、④タケノコ掘りを実施し、タケが増えすぎないように管理する、⑤PTA会員の勧誘を行い活動の継続継承をしていく。

事業成果

伐採したタケを利用するイベントの開催で親子の参加者が増えた。転落の危険がある水路北側を立ち入り禁止にすることで敷地の全範囲を整備することができた。計画管理を行うメンバーも新規で7名増えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・定期的に校内にある竹林に入る機会がつくられることで、児童が竹林の良さ（自然環境や文化など）とその管理の大変さを経験できるのは有難い。今後、児童が学ぶことができる環境づくりのためにも、無理なくできる活動やそれを支えるメンバーと資金が継続して必要だと考える。（教頭先生）

参加者の声

- ・竹林の整備のために伐るタケ、残すタケの見分け方を教えてもらえて良かった。（小学生女子）
- ・竹林は、薄暗く怖いイメージがあった。整備後は、日差しが入り込んで気持ちの良い空間になっている。（中学生女子）
- ・畑小はタケをいろいろ使っている。運動会、竹ぼっくり、竹灯籠、水鉄砲、門松、キーホルダーが良かった。（小学生男子）



境界線フェンスの設置



タケノコ掘り



看板を設置



伐採したタケを利用して門松作り

実績とりまとめ

作業内容

間伐面積：0.1ha
クラフト教室：3回
タケノコ掘り：2回

参加者数

県内：360人
計：360人

森林環境教育みらいプログラム

東京都品川区、青梅市



事業概要

次世代を担う子どもたちの「主体的に森林課題に取り組む態度」と「責任ある行動」の育成のため、体験的継続的な学びの機会を提供する。主な活動は、①森林関連NPOの方を小学校へ派遣し、森林環境問題についてのゲストティーチングを実施、②帰校後、森林環境に対する課題や林業体験から得た気づきをもとに、「森林を活用した生活を考える」をテーマに各校で探求学習を実施、③アイデアを発表するためのプレゼン大会を実施。

事業成果

多くの学校から申し入れがあり、社会課題や自然環境への関心の高まりと体験的な学びの場に魅力があるとの意見を得た。事業後は、森林体験学習やプレゼン大会を通して主体的な姿が育っていることを感じた。この事業を継続することで多くの児童、大人が社会課題に向き合って自分ごととして捉えるきっかけを作っていけると確信した。

事業をよく知る関係者の声

- ・森林体験に関わる費用を負担いただいたことに大変感謝。来年度も取り組みたい。(大井第一小学校主任教諭)
- ・このような教育プログラムを構築できたことは評価できる。(林業従事者)
- ・講師の育成と今後の受け入れ学校数増加に伴うスタッフの確保が課題である。(ゲストティーチング講師)

参加者の声

- ・間伐で木がよく育つこと、下草が生えることなど良い影響が出てくることも実際目で見ることができ、理解することができた。(児童A)
- ・プレゼン大会で、多くのアイデアが出てきてびっくりした。特に、家庭生活に落とし込んで、木材を大切に利用する取り組みには感心した。(校長A)
- ・社会科の林業単元を教えるのに、とても苦労していた。今回の体験を通して自分の中の教材が増えた。(教員A)



「森のお話」



間伐体験



間伐材の搬出



間伐材の活用を考える座学

実績とりまとめ

作業内容

間伐本数：5本
森林体験学習：4回
事前授業：4回
プレゼン大会：4回

参加者数

都内：305人
都内：305人
計：305人

里山の手入れをしながら季節暦づくり

東京都檜原村



事業概要

目的は、里山について知るために、年間を通して森の手入れや観察を続け、子どもたちが五感で楽しむ自然体験プログラムづくりを目指すものである。主な活動は、以下のとおり。①柴刈り、②センサーカメラを設置、設置の見直し、データ確認、③木工クラフト、④生き物観察と記録のまとめ、⑤お花炭作り、⑥樹名板の取り付け、⑧歩道の整備。

事業成果

里山の自然である植物や昆虫の観察は、分かりやすいが、センサーカメラによる動物の行動を知ることは、驚きだったようだ。四季の変化と、季節の応じた体験プログラムは子どもたちも楽しみにしていたが、雨や雪のため中止となったのは残念だった。予備日を設けて、対応することも課題だ。

事業をよく知る関係者の声

- ・この事業地は、人工林、落葉広葉樹林（二次林）、草地、溪流があり、里山らしい自然、風景がある。子どもたちにとって探検しがいのある場所である。樹名板など、あまり整備しすぎると、勉強の要素が強くなるため、子どもたちが自分の発想、好奇心でこれは何だろうと、考えるきっかけをどう仕掛けるか考えたい。（教員50代）

参加者の声

- ・檜原村に行くと知らない虫たちや植物をみることができた。「町中では見ることができないほど、自然が壊されてしまっているんだ。」これからもどんどん整備が続いて、虫たちの居場所が少なくなったらどうなるのだろう。今回、この現状に気づけたので、植物をもっと大切に、この現状をより多くの人に広めていきたい。（中学生）



生き物観察用のセンサーカメラを設置



柴刈り



生き物観察



炭になったクリのイガ

実績とりまとめ

作業内容

川遊び：1回
柴刈り：1回
木工クラフト：2回
生き物調査：2回

参加者数

都内：98人
計：98人

みんなで育てるキョロロの森

新潟県十日町市



事業概要

里山の魅力や機能について体験的に学び、その保全を図る活動意識を醸成することを目的とし、「キョロロの森」の整備と植林及び里山の保全体験活動を実施する。主な活動は以下のとおり。①植林予定地の整備、②散策道の改修工事、③植樹イベント、④木育イベントなどを実施した。

事業成果

「キョロロの森」における荒廃地を除根・整地し、新たにブナの植樹を行うことができた。樹齢10年未満の植林樹木について枝打ちを行い、樹木の生育促進効果が確認できた。

関係者の協力を得て、かつての植林地において除伐作業を行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・「キョロロの森」の活用について、単なる観察だけではなく参加者が楽しめるような取り組みを考えていただきたいという意見があった。(キョロロ友の会会員)

参加者の声

- ・森林の育成や再生について理解が深まった。(修学旅行の生徒)



ブナ植林予定地での除伐作業



ブナを植樹(植樹イベント)



年輪を数える(木育イベント)



親子で除伐作業(木育イベント)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.02ha
植付本数：100本
下刈面積：0.2ha
除伐面積：0.02ha
イベント：2回

参加者数

県内：25人
県外：39人
計：64人

樹種

ブナ

子どもたちの未来の森づくり事業

石川県小松市、輪島市



事業概要

第66回全国植樹祭は、2015年5月に石川県で開催され、式典参加者による記念植樹が小松市の「憩いの森」で行われた。植樹された樹木は順調に成長しているが、継続した保育が必要である。地域のシンボルとなる森に育て、学童の「森の学び」のフィールドとして整備する。

また、輪島市町屋町金蔵地区には、美しい里山や奥能登の原風景をとどめる棚田維持に不可欠な用水用溜池周辺の山林保全活動が地域住民により行われているが、高齢化に伴い次第に困難となっている。この地区は歴史的資源が残されており、世界農業遺産「能登の里山里海」の一翼を担うべく地元住民並びに小中学校と連携し、未来に引き継ぐ地域の象徴的な森づくりを行う。しかし本年度事業においては、2024年1月に発生した能登半島地震の影響で森林の保全維持が難しくなっており地域住民代表と協働で実施した。主な活動は、以下のとおり。①「憩いの森」では植樹した樹木の下刈り及び林内からの眺望改善などを図るために隣接

区域の下刈り・除伐、②輪島市町野町金蔵地内では、管理地までの安全な道線確保と管理地周辺の整備を地域の金蔵共有山林管理会と連携して実施。

事業成果

輪島市町野町金蔵地内については、能登半島地震の影響でさらに地元住民の人手不足が深刻な状況であるが、金蔵共有山林管理会と連携して実施することができた。

事業をよく知る関係者の声

・「憩いの森」では、地域の学童による森林整備の見学会が好評で、今後小松市が主催する県民森づくり大会に合わせ、見学会を実施したい。（憩いの森管理事務局員）

参加者の声

・輪島市町野町金蔵地内については、能登半島地震で地元住民の参加者が減少しているが、当会の活動を高く評価されている。（地元住民代表及び地元会員）



下刈り（憩いの森）



整備後（憩いの森）



除伐・下刈り作業（金蔵地区）



下刈り（金蔵地区）

実績とりまとめ

作業内容

下刈り面積：8.4ha

参加者数

県内：142人

計：142人

みんなの手で「もどそう! 守ろう! 石割山の緑を」

山梨県山中湖村



事業概要

荒廃した登山道の補修・整備を通じ、緑を戻す環境活動の大切さを実感してもらう。主に、石割での①自然観察、②荒れた登山道について考える活動、③山で遊ぶ楽しさを実感する活動、④山を守るために、木柵階段を設置し、登山道の法面に井桁で木組みを設置した。

事業成果

荒れた登山道の状況、原因を理解した上で登山道整備を実施。参加者は森を守るため土壌の安定を優先に考えることを学んだ。小学生にとっては少し難しかった様子だが、「自分たちの遊び場」を守るための一つの方法を実践し、重労働だけど楽しいことと記憶されたようだ。子どもたちに「保全」の芽が出た瞬間に立ち会えた。また、この子どもプログラムをPRする場において (SNSやInstagramなど)、登山道整備のボランティア参加を希望する方も多く存在していることに気づかされた。

事業をよく知る関係者の声

- ・登山道補修・整備の際、もっと子どもたちに施工を任せてみても良かった。途中で終えてもスタッフで完成させる計画でも良かった。(環境省富士五湖管理官事務所)
- ・3回目の自然観察と山での遊びは、自然の中で遊ぶことが心から楽しいと感じた表情が印象的だった。楽しい場所を自分たちの手で守るという意識が芽生えたのではないかと感じた。とても大事なことだ。(安全管理スタッフ)

参加者の声

- ・登山道整備に子どもたちはとても楽しく参加していたと思う。(小4女兒の母 30代)
- ・季節を変えて参加したい、今回の学びをもとに、ほかの山に登りたい。(小1男児の母 40代)
- ・帰るのが寂しいぐらい楽しかった。(小6男児)
- ・また、みんなと登山道整備をしたい。(小6女兒)



山での遊び



ガイドによる動物の生態解説



丸太運び



法面に井桁の木組みで土壌の安定を図る

実績とりまとめ

作業内容

森林資源活用：22本
(倒木・間伐材)
イベント(森の学び)：2回

参加者数

県内：18人
県外：22人
計：40人

とうみ子どもがまんなかプロジェクト part 2

長野県東御市



事業概要

地域住民との協働のもとで地域の子どもたちの元気な育ちを応援することを目的に、地域環境を活用した体験活動を実施した。昨年度に引き続き小学2年生以上の子どもたちを対象とした。主な活動内容は、「里山の散策・探検」、「森林整備や遊歩道整備」、「整備で出た材木を焚き木として活用した野外調理」など。子どもたちとの対話を通して活動を計画・実施した。

事業成果

今年度については「植林」という形で緑を増やす取り組みを実施できた。特に、地域スタッフの意識が変わったことが大きな収穫であったと感じている。子どもたちについても荒廃地だった場所を整備してくことで目に見えてきれいな森に変わっていったことを体験し、森への関心の高まりが伺えた。整備後のフィールド散策時の表情が非常に良かった。

事業をよく知る関係者の声

- ・参加してくれた子どもたちが良い表情で充実した様子が見られた。その反面まだまだ活動が必要な子どもたちがいるのではと感じた（保育士50代）
- ・植生の学習は大人が特に夢中になって聞いていた。誰かに伝えたい。（保護者スタッフ40代）
- ・植林の目的が、参加する子どもたちの子どもや孫たちのため、という話を伺い感動した。（地域スタッフ60代）

参加者の声

- ・生き物や自然が大好きで学べる機会もあり、毎回とても楽しかった。（小学3年）
- ・ノコギリを使って森林整備をしたり、料理をしたり、活動が楽しかった。（小学3年）
- ・ほかの学校や違う学年の友達ができた。（小学2年）
- ・子どもたちが楽しそうだった。無為に遊ぶ機会も場所も限られていると、親が実感した。（参加保護者）



野外調理のための火起こし体験



水生生物探し



階段増設作業



植林作業

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.8ha
 植付本数：35本
 下刈面積：0.4ha
 除伐面積：0.6ha
 野外活動：9回
 自然観察：1回
 遊歩道整備：4回、約200m

参加者数

県内：64人
 計：64人

樹種

ナナカマド、エノキ、クリ、
 ナツハゼ、ウグイスカグラ

どんぐりプロジェクト♪森の健康診断

長野県塩尻市



事業概要

里山整備を通じ、小学校児童の自然体験学習の場として活用し、森林の役割を学び、森林や里山に親しみを持ち、地域愛を醸成することで地域活性化・地域振興を目指すことを目的に、森の健康診断や里山整備を実施した。

事業成果

森の健康診断を通し、森林や里山に親しみを持つ意識の醸成につながった。また、森林整備により、自然体験学習の環境が整い、子どもたちの安全確保に加え、有害鳥獣出没の抑止効果も期待できる。

事業をよく知る関係者の声

- ・山に入り、肌で感じ、体験することで、より深く山のことを学習できると感じている。ここでの体験が記憶の中にとどまり、将来へと引き継がれていくことを願っている。(どんぐりプロジェクトメンバー、森林公社職員)

参加者の声

- ・森林整備は大変だ。(小学生)
- ・実際に木を倒せて良かった。(小学生)
- ・森のことを学習できて良かった。(小学生)



どんぐりプロジェクトメンバーによる日程や「森の健康診断」の説明



胸高直径測定



間伐体験



出来上がった受け口

実績とりまとめ

作業内容

除伐・下刈作業
イベント(森の健康診断ほか) : 3回

参加者数

県内 : 46人
計 : 46人

森林ESD「森あそび」の安全充実整備

長野県富士見町



事業概要

都会の子どもたちが森の中で、安全にのびやかに遊んでもらうことを目的とし、森の整備及び老朽化した装備の補充、入替えを実施した。

事業成果

今回の助成金で購入した機材などにより、これらのアクティビティのフィールド整備及び安全管理上の危険木の撤去、老朽化したアクティビティの装備などの更新を適切に行うことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・指定管理者として適切にアクティビティの安全管理ができた。今後もこの体制を維持し、このフィールドで体験をする子どもたちに有意義な経験をもたらしてほしい。(多摩市役所の担当者)

参加者の声

- ・森というフィールドで思う存分楽しむことができた。(移動教室の児童)
- ・引率する学校側としては安全管理がしっかりとされているフィールドで子どもたちが伸び伸びと体験する姿に感動した。(移動教室の先生)



危険木の伐採



危険木の撤去



ブランコの設置



森あそびアクティビティ更新後の全景

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：5.0ha
危険木の撤去：16本
枯枝の撤去：2.0ha
アクティビティの更新：
5か所

参加者数

県内：52人
計：52人

子どもがド真ん中 森のなかの多世代交流作り

静岡県浜松市



事業概要

山里の過疎地に住む親と子どもを対象とし、親が見守るなかで、未就学児～低学年の子どもたちも一緒に遊びながら森づくりを実施する。親や地域の人参加できるようにすることで、家族同士及び多世代交流の機会を提供する森づくりを目指す。主な活動は以下のとおり。①理事長所有の敷地（山林、竹林、原野、栗林）合計で約1,500坪の整備、②宿泊所として古民家と納屋の改修（約230坪）、③16畳のスペースを図書館にし、納屋も寝泊まりできるよう整理と改修を行う。

事業成果

理事長が所有する山林・竹林・栗林の整備が進み、林内の環境・状態を改善でき、子どもたちが遊べる場を整備できた。自然の少ない「まちなか」の親子も遊びに来られるよう、空き家（母屋と納屋）を整理・改修し、泊まれるようにしたことで、期間を通して、5組の家族が宿泊して、焚き

火や木工、クリ拾いなど森の遊びを行った。また、ベトナムの家族がクリ拾いに参加。近隣の人が訪ねて交流したり、東京や千葉、近隣の市町から来訪者があった。

事業をよく知る関係者の声

- ・敷地面積が約2,000坪と広いので、整備は簡単ではない。それでも、空き家と納屋の改修は大きく進み、荒れていた家屋が寝泊まりできる状態になったのはすばらしい。

参加者の声

- ・「まちなか」から宿泊を伴う参加ができたのはうれしい。子ども同士と一緒に泊まり、料理したり、焚き火をしたりして楽しかった。（木曽市の家族 40代保護者）
- ・「まちなか」ではできない焚き火、木登り、川遊びなどができて、夢のようだった。（浜松市の家族 30代保護者）
- ・ベトナムでは体験したことのないクリ拾いがとても楽しかった。来年、田んぼなど、ぜひ手伝いに来たい。（ベトナムの家族、40代、母親）



手すき和紙の職人と遊ぶ会



栗林でクリ拾い



古民家を改修して、子どもたちが工作できる場を提供



改修した納屋の庭で遊ぶ子どもたち

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：1ha
間伐面積：0.3ha
竹林と雑木の伐採：0.5ha
その他：遊びと宿泊、クリ拾い

参加者数

県内：40人
計：40人

六栗西山ふれあいの森整備事業 その3

愛知県幸田町



事業概要

昭和中期まであった六栗西山の薪採りの森を復活させ、子どもたちに里山の魅力を伝えていくとともに、子どもたちの憩いの場にするために、地域の新旧住民が放置竹林を除去し活動拠点エリアを整備する。活動は、小中学校、大学などと連携し、環境整備や植栽などの活動を実施する。そして、里山に残された「山桜を見る会」も開催し、コミュニケーションを図る。

事業成果

竹チップパー機を導入し、より効率的な活動が可能となった。六栗区新旧住民参加者が、至学館大学を受け入れ里山交流会を実施。毎回多くの学生が参加され、一気に整備エリアの景色が改善された。そのほか、豊坂小学校のアジサイ植栽体験、南部中学校の雑木伐採体験、豊坂保育園児野外の活動などを実施し、多くの保護者に本活動への理解を得ることができた。これらの活動状況を毎月「六栗西山森の

道だより」で発行し、六栗区民全世帯に周知することができた。人間環境大学の協力にて六栗西山森の道整備隊活動エリアの環境調査を実施することができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・幸田町役場がSDGs未来都市に採択された申請書において本事業を高く評価し、掲載していただいた。さらに地元六栗区内企業から本活動に賛同があり、「山の景観が良くなっている。活動参加者に敬意を表する」と評価をいただいた。これらの評価を継続するためにも、より多くの一般参加者が気楽に参加できるよう周知と活動現場での安全に留意したい。

参加者の声

- ・荒れていた竹山が、みるみるうちにきれいになり景色が良くなったことを誇りに思う。(整備隊員 60代男性)
- ・里山を整備することにより森が生き返ったように思った。(小学4年女子)



至学館大学受け入れ環境整備活動



豊坂小学校4年生アジサイ植栽活動



竹チップパー講習会活動



山桜を見る会活動

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.1ha
下刈面積：1.0ha
除伐面積：1.0ha
イベント（里山広場整備）：
19回

参加者数

県内：400人
計：400人

樹種

アジサイ

どんぐり交流会の山づくり その4

愛知県新城市



事業概要

平成8年度より、ボーイスカウト、ガールスカウト、みどりの少年団が相互の交流と親睦を図るため、毎年「どんぐり交流会」を実施してきた。主な活動として、①交流会でどんぐりの苗木の植栽とシイタケの菌打ち体験を実施、②健全などんぐり山を将来にわたり、利活用できる山づくりを目指して、以前植栽した箇所の除間伐を実施。

事業成果

昨年に比べ参加者も増え、どんぐり交流会、どんぐり山の整備を順調に実施することができた。また、参加者が2回目以上の参加経験があったこともあり、スムーズに除伐

作業を行えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・除間伐を4年実施してきた結果、山が見違えるほど明るくなった。引き続き維持管理も大切にし、まずは除間伐の実施により、どんぐり山全体を整備したい。

参加者の声

- ・大勢の力のすごさを実感した。
- ・自分の植えたどんぐりの苗木が成長し、その姿を見に来るのが楽しみ。
- ・今度は、植えた木の除間伐に参加したい。
- ・やった成果がはっきりと見ることができた。



どんぐり山の整備



シイタケの菌打ち体験



どんぐり苗木の植栽



スギ2本の枝落とし作業(外部委託)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.03ha

植付本数：200本

除伐面積：0.22ha

シイタケ菌打ち本数：200本

参加者数

県内：132人

計：132人

樹種

コナラほか

あさくら里山の保全・活用事業

愛知県知多市



事業概要

地域で唯一残された里山を50年ほど前に賑わっていたころの里山へと取り戻し、地域住民の憩いの場とするために整備を行う。整備の過程においては、地域住民と子どもたちの積極的な参加を促し、子どもたちが自然の大切さや自分たちが守るという意識向上を図っていく。主な活動は以下のとおり。①里山整備（下刈り、小径整備、落葉・倒木処理、寒肥など）、②サクラなどを植樹、③イベント（ふるさと探求ウォークラリー、桜を見る会）を実施。

事業成果

引き続き、「ふるさと探求ウォークラリー」と「桜を見る

会」を実施できた。春には多くの人がサクラを見に訪れるようになった。近くの園児が定期的に来るようになった。

事業をよく知る関係者の声

- ・散歩道が整備され、散歩が楽になった。
- ・真夏の作業には十分に注意する必要がある。

参加者の声

- ・地元の人に久しぶりに会えてうれしい。（里山参加者）
- ・園外実習を実施することができ、ありがたい。（保育士）
- ・坂道が階段状になって歩きやすくなった。（利用者）
- ・春のイベント「桜を見る会」が里山で実施できて良かった。桜がきれい。



ふるさと探求ウォークラリー



サクラを植樹



春のイベント準備でサクラなどに寒肥



落葉処理

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：3本
下刈面積：1 ha
イベント（ウォークラリー、桜を見る会）

参加者数

県内：275人
計：275人

樹種

サクラ、フジバカマ

中学生を対象とした木育活動・森づくり事業

愛知県東栄町



事業概要

目的は、地元の中学生たちが森林整備体験活動を行うことにより地域資源の有効活用を学び、SDGsの達成に寄与するためである。主な活動は以下とおり。①間伐材搬出体験活動のために作業道を整備、②作業道整備のために伐採が必要な木を伐採、③中学生のための森林体験活動（丸太の搬出作業、ウッドチップ作り、チェーンソーアート体験など）。

事業成果

今年度からの新事業であるが、近隣町村の中学校や森林組合、県事務所にも事前に出向きこの事業の主旨を説明したところ、賛同していただける意見が多かった。新聞に掲載されたこともあり、都市部住民にも中学生による森づく

り事業をPRすることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・中学校では林業の授業がないので、地元の産業を知る上でも貴重な体験ができた。
- ・今後も続けてもらいたい。（中学校長）

参加者の声

- ・初めてチェーンソーを使ったが、バッテリーチェーンソーだったので音が静かで怖くなかった。（中学1年生女子）
- ・座学で地球温暖化について説明を受け、地球温暖化を抑えるための森林の役割や大切さを学べて良かった。（中学1年生男子）



作業道の整備



チェーンソーを使い椅子作り（森林体験活動）



ウッドチップ作り（森林体験活動）



木陰で座学（森林体験活動）

実績とりまとめ

作業内容

大径木伐採：12本
作業道拡幅：63m
砕石敷設：50t
イベント（奥三河森づくりプロジェクト）：1回

参加者数

県内：73人
県外：2人
計：75人

あつまれ！忍びの森プロジェクト

三重県伊賀市



事業概要

「伝統工芸・伊賀焼」の里で、荒廃した薪炭林を手入れし、かつてのように松茸のとれる楽しい山を取り戻すことが本事業の目的である。主な活動は、①立ち枯れのマツなどを伐採、②下刈り、③生息・生育している動植物に関して調査、④一般の方にも安全に森の中で活動してもらえるように歩道を整備、⑤森を身近に感じてもらう木育ワークショップ（整備で出た小枝を利用したカトラリー作り）、⑤親子を対象とした自然観察会や森林環境学習を通して、森の楽しさを伝える活動（自然観察指導員による指導）である。

事業成果

立ち枯れマツなどの危険木を伐採集積して安全に森の中に入れるようになった。また、水辺環境を手入れして、ヒツジグサの生育改善・オニヤンマの産卵場所の保護・モリアオガエルの産卵場所の保護などを行い、自然観察会を行える新しいフィールドを創出することができた。定点カメ

ラを用いた継続的な観察や地道な植物の調査では、新しい森づくりを考える上で貴重な知見も多く得られた。自然観察会では、近隣の津市からも参加する方々も見られ、ほかのイベントにおいても多くの参加者を得られた。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域住民の支援を得た体験活動は里山再生に必要な力である。参加児童の笑顔が未来につながる活動になる。事業継続を強く望む。（丸柱地区市民センター長）

参加者の声

- ・貴重な体験だった。子どもたちにとって巣箱作りは初めてのことで、キツツキが入ってくれたらいいなと楽しみにしている。（巣箱作り体験参加 保護者）
- ・息子に、活動した森でのキツツキのドラミングを伝えるインスタ動画を聞かせたら驚いていた。（巣箱作り体験保護者）



コシアブラの古木を利用して橋作り



ルーターを使って小枝に彫刻する子どもたち



キツツキの巣箱作り体験



水辺の生き物探し

実績とりまとめ

作業内容

森林資源活用：3本
作業道整備：30m
危険木伐採：52本
イベント
（木育ワークショップ）：3回
（自然観察会）：4回
（苔勉強会）：1回

参加者数

県内：215人
県外：43人
計：258人

森のたまり場づくりと、ものづくりの実践

滋賀県大津市



事業概要

小中学生が豊かな自然環境の中で森のしくみや生き物を理解するために比叡平団地に隣接する「青い鳥の谷の子ども広場」をつくる整備活動を行ってきた。本年度は今までの成果を展開するために、天候に左右されず、小中学生がいつでも自由に集い、話し合いながら生き物観察ができる「森のたまり場」づくりに取り組んだ。具体的には中心となる広場に手作りの「あずまや」を設置した。

事業成果

新たに1か所の野鳥観察ステージと子どもたちが集える「あずまや」を設置した。野鳥・昆虫の観察会を4回、講演会・講習会を2回、里山体験活動を4回開催した。「青い鳥の谷子ども広場」の整備により、小学校の課外環境教育、幼稚園児の「里山散歩」、休日の親子連れの訪問に広く利用されている。

事業をよく知る関係者の声

- ・地域の情報誌である月間「やまひだより」に毎月活動記事を載せ、広く活動内容知らせているため、多くの賛同の声が届いる。
- ・小学校関係者から謝辞が届いている。

参加者の声

- ・森に住んでいる昆虫の生態を知った。普段何気なく捕まえている昆虫たちの面白い生態について興味深く聞いた。
- ・自然とのふれあいと授業での学習が比較して学べ、良い環境教育が身に付いた。
- ・散策中に森の中には、思いもよらないところにゴミが落ちていて驚いた。日頃から森を大切にする心を養っていかねばならない、と改めて感じた。
- ・森は、管理しないと木の枝からんだりしてもじゃもじゃになるんだなあ、と思った。



あずまやの屋根作り（ヒノキの皮貼り）



野鳥観察会



昆虫講演会



里山体験活動で薪割り

実績とりまとめ

作業内容

森林資源活用（薪）：200束
イベント
（野鳥観察会）：4回
（昆虫観察会）：3回
（講演会）：2回
（講習会）：1回
（里山体験活動）：5回

参加者数

県内：約100人
計：約100人

緑の大阪! SDGs・里山協働活動

大阪府池田市



事業概要

日本古来の自然観に基づき、地域自然に里山を復活させ、クワガタムシやカブトムシとのふれあい活動を通して、子どもたちに「共生・感謝・畏敬」などの価値を未来に継承させていくことを目的とする。主な活動は、①自然探検活動、②飼育講習活動、③読み聞かせ活動である。

事業成果

本事業において、クワガタ・カブトムシの里山塾やモミジ祭、植樹祭、河川のクリーン活動などのイベントを10回実施、大勢の方々が参加した。毎年発行している「輝け!クワガタ探検隊の総括誌」についても今年度27巻として発行できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・イベントで「クワガタ探検隊家族」がスタッフ役を担当し、子どもたちへもNPO活動を体験させた。小学4年生の少年が説明役として参加者にていねいな説明をしていた。着実に、“未来の森の守り人”(子どもたち)が育っていることを実感できた。

参加者の声

- ・分別が大変だったが、河川付近をきれいにする活動は重要だと思う。(猪名川クルーン作成(ゴミ拾い参加者))
- ・大きいカブトムシ、クワガタの幼虫に触れて楽しかった。(オオクワガタ・カブトムシ里山塾参加者 幼児)



猪名川クリーン作戦④には189名が参加



池田市主催の「春団治まつり」にて創作紙芝居を上映



コナラを植樹した“未来の森の守り人”



カブトムシ、クワガタの幼虫とのふれあい

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：20本

イベント：10回

参加者数

計：784人

樹種

コナラ

漁業者による森づくり活動

兵庫県淡路市



事業概要

目的は、柴浸け※によるアオリイカ産卵床造成にあわせ、一般県民にも呼びかけながら植樹活動を進め環境の保全と地域貢献を図ることである。

※柴浸け：地域に自生するウバメガシなどを伐採し、アオリイカの産卵床に活用するもの

事業成果

毎年、植樹地近隣小学校へ植樹活動協力を依頼し、植樹後には山と海のつながりなどについて水産教室を実施している。このことにより、海と山との関係をはじめ、環境保全についての知識を深めてもらうことができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・海に栄養分を増やすための取り組みはすぐに大きな成果ではないが、こつこつとやっている。子どもに森や海の大切さを認識してもらえたら良い。(70代漁師)

参加者の声

- ・初めて自分で木を植えたけれど、うまくできたと思う。すくすく伸びて魚やイカを育てるのに役立ってほしい。(小学生女子)
- ・植えるのは少し難しかった。木を植えると海のために役立つと初めて知った。(小学生男子)



ウバメガシを植樹



植樹後は「水産教室」で海と森の関係を学ぶ



植樹完了後



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.5ha

植付本数：600本

下刈面積：2ha

イベント（水産教室）：1回

参加者数

県内：115人

計：115人

樹種

ウバメガシ

生駒市西畑町の棚田・里山の再生と創造

奈良県生駒市



事業概要

生駒市西畑地区は人口減少に伴い、農業も衰退して棚田・里山が荒廃している。地元自治会の要請により、棚田・里山の景観整備を最重要項目として、棚田・里山の自然の魅力を見出すべく棚田に来る家族連れや、子どもたちに楽しんでもらえるように活動している。主な活動は以下のとおり。①休耕棚田の景観整備、②里山林の整備、③休耕棚田に果樹や山野草を植栽、④山の林に植樹、⑤「山のようにえん」野外教室の場を提供、⑥小学生対象の棚田・里山「校外学習」を実施。

事業成果

国道308号線から水車に至る沿道に栽培したヤグルマギクやコスモス、ヒマワリが咲いて、水車からの小川兩岸のアジサイなどが季節ごとに来場者の眼を楽しませている。景観整備も自治会との共同草刈りも予定どおり実施。1月

の大とんども地元行事として定着した。

事業をよく知る関係者の声

- ・西畑町自治会は2003年に「いこま棚田クラブ」を設立以来、共同作業（草刈り・側溝の水路清掃・大とんど）など年間を通じて、実施している。「いこま棚田クラブ」が毎週活動することで、西畑町の景観整備が維持されており、20年以上が経過した。地元の人たちや自治会のメンバーから、活動に対して感謝の意をいただいている。

参加者の声

- ・棚田・里山を活用したならコープと提携の「菜の花プロジェクト」は10月～翌年6月まで、月に1回家族連れで参加（1月と2月は除く）し、午前中は菜の花の手入れで土に親しみ、午後は棚田のミニイベント（サツマイモ掘り、椎茸の菌打ちなど）という活動で、大変楽しい。（菜の花プロジェクト参加者）



自治会との共同草刈り



自治会との共同「大とんど」



「山のようにえん」でアジサイの剪定



クヌギを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：5本
下刈面積：1.1ha
除伐面積：0.1ha
森林資源活動（ホダ木）：100本
山のようにえん：21回
稲刈り：1回
奈良県イベント：1回
シイタケ菌打ち：2回
大とんど：1回
菜の花栽培：7回
自治会と草刈他：5回
近畿大学実習4回
向山間伐整備：15回

参加者数

県内：709人
県外：867人
計：1,576人

樹種

クヌギ

みんなでつくるドングリの森

鳥取県鳥取市



事業概要

目的は、園児たちが育てた苗木を自分たちで植え付け、成長を見守ることで森林への関心の醸成を図り、森のともだちを増やしていくこと。主な活動は、「森の教室」に参加した鳥取県内の3つの保育園の園児たちを対象に、園児たちが育てたドングリの苗木を森林公園に植栽する「植樹会」を開催した。

事業成果

事業初年度に植樹したコナラ苗の樹高が3m近くになり、ドングリの森ができつつあることを実感している。

事業をよく知る関係者の声

- ・地球温暖化や気候変動による環境の変化は私たちの生活



生分解性ポットに入れてコナラを植樹



植樹地



看板を設置



植樹に参加した子どもたち

だけでなく、地球に住む多くの生物にいろいろな影響を与えている。この環境の変化を抑えるためにも環境保全意識の高揚を発信できる事業として、また「未来を植え育てる事業」として今後もこの活動の輪を広げていただきたい。（森林公園指定管理責任者）

参加者の声

- ・非常に有意義な活動である。育てた苗木を山に植えるという貴重な体験ができた。今日植えた苗木がやがて森になり、私たちの暮らしを守ってくれることを子どもたちが学ぶ良い機会となった。今日植えた苗木が、高校生になる頃には大きな木になりドングリが実ると話すと、子どもたちは驚いていた。（幼稚園園長）

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：74本

参加者数

県内：95人

計：95人

樹種

コナラ

美保関で森活

島根県松江市



事業概要

身近な里山空間を創出することで、森の学びと遊びを体験できるようにし、100年後の子どもたちへプレゼントすることを意識しながら、地域のシンボルとなる森づくりを目指す。主な活動は、里山空間（以下、フィールド）の拡張作業と子どもたちの野外活動の中での自然観察会、除伐作業、間伐材などを再利用したクラフトを実施した。

事業成果

機材の準備ができたことで作業を委託せず自力で実施できた。また、フィールドの拡張を進めたことで、空間を分散して活動ができている。新たに活動者も加わり、次期への継続が期待される。参加する子どもたちも、新規に10人増えた。当フィールドにリピートする子どもたちも多くなり、認知度が上がった。前年度に引き続き松江市農林基盤整備課の主催で小学校の森林学習にも活用され、フィールドとして定着してきたことを成果として意識している。

事業をよく知る関係者の声

- ・今年度は整備作業を自力で実施してみるということで、見守らせてもらった。慎重に自分らのできることを見極めながら実施していた。今後も無理をせず長くこの活動が続けてほしい。町内の方々からも信頼を得てきているのを感じている。課題は、できる作業とできない作業の見極めをし、無理しないこと。（NPO法人もりふれ倶楽部事務局長）

参加者の声

- ・活動を根気強くやっている。自分たちにも学びの機会を作ってくれており、ありがたい。（80代男性 平日作業参加者）
- ・町外からも人が来るようになるとは思わなかった。大変なことも楽しみながらやっている。（70代男性）
- ・ここで作業に参加すると仲間ができた。子どもたちのためにも続けてやってほしい。（70代男性）



チェーンソーの取り扱い講習会



オトナの森活



火起こし体験



森の花草を使った工作

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：1本
下刈面積：0.125ha
除伐面積：0.75ha
オトナの森活：14回
森林資源活用：2回
自然観察会：3回
野外活動：6回
生態調査：1回

参加者数

県内：75人
県外：2人
計：77人

樹種

ハナモモ

みんなで育てよう伊部つながりの森の整備事業

岡山県備前市



事業概要

「伊部つながりの森」は岡山市の(株)ティシーシーが森林所有者である伊部区有林管理会と協定を締結し、同社が社会貢献活動として森づくりを行うため設定した。この場所を活動の基地として平成25年に片上、伊部自治会及び(株)ティシーシーによる実行委員会を設立し森林作業だけでなく、森林を活用した体験学習に取り組み、本年で10年目である。備前市内4小学校5年生児童がともに森林体験(マツの植栽、シイタケ菌の植菌)、森の役目について学び交流を通じて親睦を高めた。伊部小学校5年生より森の出前授業の要請があり授業を行った。また、伊部つながりの森では、伊部つながりの森「夏遊び」及びおかやま森づくり県民基金イベントを開催した。また、地区行事の利用もあった。

事業成果

昨年に続き、つながりの森内の歩行困難の道をコンクリ

ート舗装できた。また、備前市が赤松の再生の取り組みを開始し、伊部区有林会用地での再生イベントでは、当会も地拵えを実施し、参加した。

事業をよく知る関係者の声

- ・令和6年度には継続のための活動資金が課題となる。植栽から大きく成長した木々の手入れなどの作業内容へ変更が必要になってくるのではないかな。

参加者の声

- ・ドリルを使用したシイタケの植菌が一番印象深い。植樹は指導者に手伝ってもらい、言われたとおりするのが精一杯だった。(小学5年生)
- ・野外授業の提供はありがたい。さらに継続をして森についての認識を学ばせたい。(教師)



伊部つながりの森で「夏遊び」を8年ぶりに開催



植樹指導



アカマツ(桃太郎松)を植樹



つながる森にて巣箱作り

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：310本

参加者数

県内：215人
計：215人

樹種

ヤマザクラ、アカマツ(抵抗性：桃太郎松)

次世代に向けたきせつえん再緑化事業

広島県東広島市



事業概要

当校には約1,300㎡の植物園「きせつえん」がある。開設時は当時の校長と植物学者の博士が話し合いを行い、園内の木々の選定を行ったと伝えられている。開設以来大掛かりな手入れは行われていないため樹齢も高くなっていた。そこで本事業では、次世代の子どもたちのために活気ある「きせつえん」となるよう、以下を実施した。①雑木を除伐、②四季を通じて見ごろを迎える樹木を選定（14種）し植樹、③樹齢が高く安全でない木を除伐、④土留めの崩壊部分の修繕。

事業成果

「きせつえん」開園以来初の大掛かりな手入れということで学校、PTA、地域の方が目を向ける良い機会となった。今

後の維持管理の話し合いや、子どもたちにどうしたら自然とふれあってもらえるかなどの意見交換ができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・学校予算だけでは維持できない「きせつえん」をきれいにしてくださき感謝している。（校長先生）
- ・開園以来初の手入れが行われとても良かった。（地域の方）

参加者の声

- ・植樹の際に、木の説明や土の作り方、今後この木はどのように成長していくかなどの説明を行ってもらってとても勉強になった。（4年生児童）
- ・木を持ったことがなかったが、初めて持った。とても重かった。（4年生児童）



高齢樹木の除伐



重機による土留め補修及び植樹準備



樹木などの説明授業



14種、27本の選定木を植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.13ha

植付本数：27本

下刈面積：0.07ha

除伐面積：0.01ha

参加者数

県内：121人

計：121人

樹種

ソメイヨシノ、ヨウコウサクラ、オオシマザクラ、カワヅサクラ、ノムラモミジほか

どんぐりを育てる秘密基地

熊本県人吉市



事業概要

令和2年熊本豪雨被害の風化防止と里山の風景を未来の子どもたちに継承するために、どんぐりを育て植樹活動を行う。主な活動は以下のとおりである。①どんぐりを育てる苗床の整備と発芽したどんぐりの植え替え作業、②どんぐり貯金箱設置、③植樹活動、どんぐりの実から苗木を育て、植樹を实践する体験型環境教育。

事業成果

苗の植え替え作業は本来の時期では無かったがしっかりと根づいた。どんぐり貯金箱を設置したところ小さな子どもも参加でき、多くの人に知ってもらいきっかけとなった。また植樹活動では、植え替えた青井阿蘇神社の苗だけでは足りず、南校高校よりクヌギの苗200本を提供していただき植樹できた。植え替え作業に参加していただいた方が友だちを誘って植樹活動に参加していただくなど、少しずつ広

がりが見えはじめた。

事業をよく知る関係者の声

- ・人吉球磨地域のような田舎の子どもであっても、山に行き木を植える体験はなかなかない。実を植え、苗木に育て、植樹をすることで、生命の不思議を間近で体験し、土の感触や匂いなどに触れる経験により五感を磨くことができる。より多くの子どもたちに体験してほしい。(30代・男性教諭)

参加者の声

- ・植樹をするどんぐりの苗木は葉っぱが茶色で枯れていた。植えることで根をはり緑の葉っぱが出てくると初めて知った。(30代母・子ども2名と参加)
- ・はじめはシャベルの使い方が分からず穴を掘るのに苦労したが、だんだん慣れて楽しかった。また、ぜひ参加したい。(男子小学生)



苗床の整備しどんぐり苗を植え替え



どんぐり拾い



どんぐり貯金箱設置



クヌギを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.2ha
植付本数：230本
下刈面積：0.1ha
作業道整地：100m
苗植え替え：30本
どんぐり拾い：200個

参加者数

県内：69人
計：69人

樹種

マテバシイ、クヌギ

未来につなぐ松林再生事業～小学生と共に～

大分県杵築市



事業概要

放置され荒廃化した海岸松林を整備し、多くの人々が将来にわたり環境・観光・健康資源として利活用できる海岸林にする。主な活動は以下のとおり。①雑木の除伐やマツの間伐により空き地となった松林内の抜根及び整地作業、②地元小学生や地域住民、市内外の賛同者などと松くい虫抵抗性松苗1,150本の植樹、③小学生へ緑の野外学習としての環境教育、一般参加者へ森林を育てるための技術指導など、④松林内で高校生やインターナショナルスクール生等による松葉かきで松露の発生など生態系の保全、年3回の松林内の下草刈り作業で景観保全。併せて海岸砂浜もプラスチックごみなどの収集を実施。

事業成果

雑木の除伐後の切り株を重機により抜根及び整地作業を実施したことで、安全にスムーズな作業ができるようになった。

った。植樹の植え穴掘りや植付作業も効率よくでき、下草刈り作業も作業時間の短縮を図ることができた。

事業をよく知る関係者の声

- ・継続した活動によりきれいになった松林の中で、雑木やグミ、カズラなどの生茂っていた場所は多くの切り株が残り、下草刈り作業や今後の植樹の妨げになると気になっていた。今回の事業できれいに整地でき良かった。今後も継続した植樹と広い面積で大変ではあるが、下草刈り作業や間伐など維持管理に取り組んでもらいたい。(60代自治会役員)

参加者の声

- ・初めてマツを植えて楽しかった。これから大きく育つのが楽しみ。(小学生男子)
- ・緑の野外学習でマツやほかの木のいろいろなことを教えていただいた。(小学生女子)



重機による抜根及び整地作業



小学生へ植樹指導



高校生ボランティアと一緒に植樹



看板を設置

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.9ha
植付本数：1,150本
下刈面積：30ha
抜根及び整地：3ha
松葉かき：3回
緑の野外学習：2回

参加者数

県内：296人
県外：30人
計：326人

樹種

抵抗性クロマツ

馬事公苑子どもの森づくり活動

鹿児島県南九州市



事業概要

子どもたちが森林内で楽しく遊び、林業体験活動を行う中で森林・林業への理解を促進するための活動を実施。主な活動は、①植樹、つる切りなどの保育作業の体験活動、②森林内を散策しながら森林の働きなどを学ぶ活動、③スギ材を使用した木工教室、④歩道整備、施設を案内するサイン整備、「こどものいえ」の建設。

事業成果

植樹後の下刈り、つる切り及び補植など保育活動を中心に活動できた。また、施設を案内するサイン整備と「こども

のいえ」を建設したことにより、子どもの森がより充実したものとなった。

事業をよく知る関係者の声

- ・放置されていた市有林が緑の募金事業を導入したことで見違えるようになった。市としても今後この森を生かせるような取り組みをやっていきたい。(南九州市長)

参加者の声

- ・統一活動日に参加。子どもたちは、新鮮な活動ができて貴重な体験となった。可能ならば引き続き継続して開催してほしい。(統一活動日参加者)



ヤマザクラを植樹



木工教室ではスマホ、リモコン入れを作成



サイン整備 (子どもの森とミツバチの森の分かれ道)



統一活動日に参加した地元の児童クラブの皆さん

実績とりまとめ

作業内容

植付本数：15本
下刈面積：0.5ha
除伐面積：0.5ha
森林資源活用：0.4㎡（歩道整備、横断工設置、木工教室、こどものいえづくり）

参加者数

県内：54人
計：54人

樹種

ヤマザクラ

